

家庭学習の手引き

小学校の学習は、将来社会人として自立するための基礎となるものです。特に「聞くこと」「話すこと」「書くこと」「計算すること」は、欠かすことのできない「生きるための力」です。

学校では、コース別学習やTT（ティーム・ティーチング）など、「個に応じた指導」の取り組みを通して基礎学力を高めるため努力していますが、家庭と協力することによりさらにその力が何倍にも高められます。

つまり、家庭学習の習慣化が子どもの「生きる力」を高めるのです。

この手引きをよく目にする場所に貼っておき、家庭学習の習慣化を進めましょう。



1. 家庭での学習を習慣化しよう

学習時間のめやす

低学年30分 中学年40分 高学年60分

学力アップは規則正しい生活から

- 早寝・早起き 朝食は必ずとる ○朝の排便
- テレビは1日1時間（ゲームも時間を決めて）
- 自分で時間割や学習用具をそろえる

学習の3つのポイント

- ・テレビを見ながらしない
- ・よい姿勢でする
- ・机の上をきれいにしておく



2. 家庭学習の参考例（各学年共通）

- 国語
- ・漢字練習 ・意味調べ ・視写 ・日記 ・音読
 - ・漢字テストでまちがった漢字を覚える
 - ・ことばの使い方調べ

- 算数
- ・計算練習 ・百ます計算
 - ・テストでまちがった問題をもう一度ノートに写して解いてみる

- 社会・理科・総合
- ・勉強したところに関係があることがらを本やホームページなどで調べまとめる

市販のドリルや問題集などに取り組んでみるのもいいでしょう。



3. 各学年で身につけたい力

習慣づけの1年生

ひらがな・かたかなの清音が読めて書ける。
助詞（て・に・を・は）を適切に使いつけて文章が書ける。
たし算・ひき算ができる。
80字の配当漢字のすべてが読め、8割の漢字が書ける。
鉛筆を正しく持って字が書ける。

逃げない子にする2年生

160字の配当漢字のすべてが読め、8割の漢字が書ける。
順序よくお話をすることができる。
九九がすらすら言える。
定規を使って筆算をきれいに書きながら計算できる。
決められた長さの直線を正しく引ける。

分岐点を乗り越える3年生

200字の配当漢字のすべてが読め、8割の漢字が書ける。
短い詩が暗唱できる。
簡単なことわざを知っている。
主語と述語の意味がわかる。
わり算ができる。
はかりを使って重さがよめる。

「9歳の壁」を破る4年生

200字の配当漢字のすべてが読め、8割の漢字が書ける。
ローマ字を適切に読み書きできる。
文と文のつながりを考えながら、指示語や接続語を使う。
国語辞典・漢和辞典を正しく使える。
わり算の筆算ができる。
倍を使った文章題が正しく解ける。
コンパスを使って簡単な図形がかける。
地図を使って見知らぬ場所や地名が調べられる。

天と地の差がつく5年生

185字の配当漢字のすべてが読め、8割の漢字が書ける。
今まで習った漢字を使った熟語の8割が書ける。
小数のかけ算・わり算ができる。
分母が同じ分数のたし算・ひき算ができる。
割合・百分率を使った問題が解ける。
パソコンでローマ字入力ができる。
47都道府県の位置がわかり、正しく書ける。

中学校生活に希望が持てる6年生

小学校で習得すべき漢字のすべてが読め、8割の漢字が書ける。
（6年生は181字）
小学校で習う漢字を使った熟語の8割を正しく書ける。
歴史に残る古文のいくつかにふれ、暗唱できる。
分数のたし・ひき・かけ・わり算ができる。
歴史上の事件や人物についてほしい説明ができる。

重要な年号を30程度覚える。
日本国憲法の前文が暗唱できる。
三権分立など社会用語のほしい説明ができる。
世界の主な国々の位置を正しく示せる。
理科の実験道具の正しい扱い方を知っている。
パソコンで速くローマ字入力ができる。

4. 生活の中で、見えない学力をつけよう

- ア 読書は「見えない学力」を高めます。
- イ 国語辞典・漢和辞典その他の事典や図鑑類を身近に置いて調べよう。
- ウ 日本地図・世界地図を身近に置いて調べよう。
- エ 地球儀をテレビの隣に置いて調べよう。
- オ ニュース番組を親子で見ながら話そう。

- カ 小学生新聞など、新聞を読もう。
- キ 百人一首など詩歌の暗唱をしよう。
- ク 将棋や囲碁など頭を使うゲームをしよう。
- ケ 自然や生き物とふれあい、くわしく観察しよう。
- コ 家の仕事をめんどくさがらないでやろう。



学力向上は
家庭学習の習慣化から